

(7-1) 第2回気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和6年9月12日(木) 14時00分から16時5分まで

【場所】気仙沼合同庁舎大会議室

(1) 宿泊税を活用した施策について

- 仙台市が行ったポケモンのイベントのような集客効果が大きいイベントの誘致、イベントツーリズムについても施策の念頭においていただきたい。
- 今後の施策を考える上でインバウンドは大きな要素の一つになる。インバウンド効果を地方に広げるため、長期滞在につながるコンテンツづくりのような施策を考える際は、地方の意見も聞いて欲しい。
- スポーツ大会の誘致により、リピーターや視察も含め少しずつ客が増えており、これが周辺の民宿やホテルへの宿泊、お土産の購入などに繋がっていけばよいと思う。
- 以前、宿泊事業者の方にビーチスポーツのイベントをInstagramでシェアしていただいた。SNSを活用した情報発信の強化により、地域全体に誘客効果が還元される仕組みを考えて欲しい。

(2) 宿泊税の導入に当たって県に求める取組・対応等

- 宿泊税を財源とする施策を考える際は、有識者だけではなく是非宿泊事業者や地域の事業者も含めた検討組織を立ち上げてもらいたい。
- 県は、宿泊税を導入している他の自治体の税率などの現状を明示し、その中で宮城県はこうなると、メディアを含め丁寧に根拠を示していくべきではないか。
- 一律300円は低価格の宿泊施設で税額が高くなり、税の逆進性から見て課題がある。難しいとは思いますが、中小事業者を育成していくという意味で、国が行っている所得税や法人税の減税といった仕組みも併せて考えるべきではないか。
- 今日反対の立場で出席しており、9月議会に提出予定であるとか宿泊税の導入といった資料を見るのは残念である。
- 先日の宿泊事業者向け説明会で配布した導入県の宿泊事業者への聞き取り調査の結果などのデータは、圏域会議の場も含め、もっと広く周知していくべき。また、宿泊税が課税されない隣接地域のデータも示すべき。
- 施策への使い方として民間の旅行会社への委託が想定されるが、それよりは県と地域の民間事業者が連携し、地域が持つノウハウや現場感の視点も取り入れた施策に力を入れて欲しい。
- 今後、インバウンドでは何万人、一般の観光客の方では何万人といった中期的なプラン、目標値をしっかりと示し、徹底していくことが必要である。これがないと宿泊事業者の設備投資も進まないし、やる気も起きないと思う。

- 宿泊利用者が宿泊税について理解し、円滑に宿泊税を利用者に転嫁できる仕組みを宿泊事業者の意見も聞きながら作って欲しい。
- 今後、またいつ大きな災害が起きるかわからないが、5年後、10年後スパンで施策の見直しやチェックを行い、進行管理をしていかないと取組が風化してしまう。
- 諸手を挙げて賛成するわけではないが、令和2年に提示された原案から修正されたことは評価する。今後、観光への取組を官民一体となって進め、宿泊税が宮城県の経済活動に生きた財源としてフィードバックされることを期待する。
- 宮城は「東北のゲートウェイとしての役割を發揮」とあるが、観光に携わる者としては、光が当たると影ができるように、仙台市が行うと仙台市以外の地域はどうなるか心配になる。今回の宿泊税は、これからの県経済を拡大させ、税収を上げそれを循環させていく、いわばカンフル剤のようなもの。光だけではなく影の部分も含め、しっかり議論しながら次に進めていただきたい。